

日本地域学会ニューズレター

平成 17 年 no.1

平成 17 年 1 月 31 日

目 次

I. 会長挨拶	...	2
II. 総会報告	...	3
早稲田大学で開催された日本地域学会総会についての報告		
III. 理事会報告	...	4
平成 16 年度第 3 回・第 4 回理事会, 平成 17・18 年期新理事会についての報告		
IV. 編集委員会報告	...	5
『地域学研究』第 35 巻第 1 回編集委員会についての報告		
V. 役員人事等	...	6
VI. 平成 17 年度 日本地域学会 会費納入のお願い	...	10
平成 17 年度会費請求額, さらに会費早期納入の特典について		
VII. 第 42 回日本地域学会年次大会 (平成 17 年 10 月 8-10 日)	...	10
論文報告の募集, シンポジウムについて		
VIII. PRSCO 大会	...	11
IX. 学会賞 授賞者選考候補者推薦の募集	...	12
X. 会員通信	...	12
XI. 会員の移動	...	13
『地域学研究』バックナンバー申込書		
...	...	15
正会員入会申込書		
...	...	16

I. 会長挨拶

平成 17 年 1 月 1 日

日本地域学会

会長 熊田 禎宣

分権の時代における地域主権を市民と共に実現していくことに貢献する開かれた新しい科学としての地域学を創造することを願う。誰もが、何処でも差別なしに自分の個性を活かして「人生いたるところに青山あり」として生活を営む機会を確保できるためには、千差万別の個性にあわせすべての個人の学習需要に公平に満たすことができるユニバーサルデザインの学習機会が個人のニーズにあわせさまざまに用意されなければならない。そのためには大学や組織の知的競争のモデルのパラダイムを記憶能力の優劣を競うことから、異なった個性を開花させ創造力を自ら高めていく能力の競争に変え、高齢社会の生涯学習ニーズに応える場で育てられる知的創造力をもって自由に活動できる新しい競争社会を形成していくことが不可欠である。S. ピンカーは『人間の本性を考える』（NHK ブックス）という名著で進化心理学の立場からこれまでの社会科学の理論全体の再編を企画している。その 16 章で経済システムを進化心理学から論じ、自由な参画により個人の自由な判断が最も公正に活かされてこそ「進化」が作用する、としている。国家や企業が「個人を制度のマストに強制的に縛り付けて」画一的な枠組みを異なったニーズを持つ個人に押し付け航海させるやり方を行っていることを無視して、経済学の云う合理的選択を個人は期待効用を最大化することで経済システムが効率化するという含意の理論化をしていることをピンカーは批判している。これは進化的には劣っている行動選択を産出しているとして、ピンカーは「進化的に安定した戦略」(Evolutionally Stable Strategy) から離れた選択を個人にも社会にも強制するマストになった「社会のバカのカベ」は解消すべきと主張している。

本格的な市民社会への移行が叫ばれる中、計画活動への真の市民参加を可能にするためには、都市づくりや地域づくり等の計画の評価、策定、実施の三段階すべてに市民が完全に、自由で、公平な (3F) 参画をして評価活動を体験することを支援できる学会でありたい。

II. 総会報告

標記総会が、去る平成 16 年 9 月 11 日 (土)13:20 より早稲田大学国際会議場井深ホールで行われました。まず、はじめに日本地域学会会長 (酒井泰弘 滋賀大学 教授) 挨拶の後、外国からの来賓代表として、Jacques Poot 氏よりご挨拶戴きました。この後、酒井会長を議長として下記の通り審議と報告が行われました。

議題

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶 Prof. Dr. Jacques Poot
4. 議題

1) 新入会員・退会希望者の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より報告があり、64 名と 1 団体の入会および 32 名の退会を承認。

2) 名誉会員の承認

この件について熊田委員長より、河上省吾元会長が推薦され、これを承認。

3) 平成 15 年度の収支決算の承認

この件について加賀屋財務担当常任理事より報告があり、宮田監事より適正に処理されていることが報告され、これを承認。

4) 平成 16 年度の収支予算 (案) の承認

この件について加賀屋財務担当常任理事より予算案が提案され、これを承認。

5) 平成 17・18 年理事候補者の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、投票に基づく候補者が提案され、これを承認。

6) 日本地域学会年会費値上げ

この件について氷鉤総務担当常任理事より、諸般の事情で正会員 1 万円、学生会員 7 千円とすることが提案され、これを承認。

7) 国際会員カテゴリー

この件について氷鉤総務担当常任理事より、国際地域学会の会員カテゴリーが細分化されることおよびこのためアンケートで確認を行うことが報告され、これを承認。

8) 第 42 回 (2005 年) 年次大会の開催地、開催校等の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、鳥取大学で 10 月初旬の予定で行うことが報告され、これを承認。

9) 第 43 回 (2006 年) 年次大会の開催地、開催校等の取り扱いの承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、東日本で候補を選定中であることが報告され、事務局に一任することを承認。

10) その他

なし

5. 報告事項

1) 新入会員キャンペーンの継続

2) 『地域学研究 (35 巻)』編集委員会の構成

氷鉤総務担当常任理事より、関連規程の改正が進行中であり、早ければ第 35 巻の編集から新しい編集体制でスタートする可能性があるとの報告と説明があり、これを諒承。

3) 『地域学研究 (34 巻)』の編集

4) *Studies in Regional Science*, Vol.33, No.2 および Vol. 34, No.2

5) 環太平洋地域学大会機構 (PRSCO)2005 年第 19 回大会

6) RSAI の動向

7) PRSCO の動向

8) その他

この後、2004 年度第 13 回学会賞の授与式が執り行われました。原勲委員長より経過報告の後、酒井会長より下記会員に各賞が授与され、受賞者よりご挨拶いただき、総会は無事閉会しました。

功績賞 (第 17 号) 山村 悦夫

論文賞 (第 13 号) 加賀屋 誠一「計画情報がもたらす交通行動特性変化への影響解析に関する研究」

奨励賞 (第 19 号) 内藤 徹「産業廃棄物の処理システムと産業廃棄物税の使途選択問題」

奨励賞 (第 20 号) 福本 潤也「最適契約として捉えたインフラプロジェクトの事前評価と事後評価」

奨励賞 (第 21 号) 福山 博文「産業廃棄物の処理システムと産業廃棄物税の使途選択問題」

著作賞(第11号) 田中 啓一他「制度と社会の安全保障」

著作賞(第12号) 青山 吉隆他「都市アメニティの経済学－環境の価値を測る－」

著作賞(第13号) 中山 恵子「投入産出分析と最適制御の環境保全への応用」

III. 理事会報告

日本地域学会 平成16年度 第3回理事会

日 時: 平成16年9月10日(金) 18:00-20:00

場 所: 早稲田大学西早稲田キャンパス国際会議場 第3会議室

出席者: 酒井会長, 熊田, 信國, 青山の各副会長, 氷鉤総務担当常任理事, 加賀屋財務担当常任理事, 有吉, 白井, 河上, 河野, 鈴木, 高橋, 田中, 多和田, 原, 藤岡, 細江, 眞栄城, 三友, 宮城, 山村の各理事(浅見, 今泉, 河村, 木村, 斉藤, 戸田, 福岡, 矢田の各理事から委任状付託; 宮田監事; オブザーバとして太田, 萩原, 松行の各編集委員, 光多次期大会準備委員長; 小林, 櫻井, 渋澤, 水野谷, 森島の各幹事; 坂田事務局秘書)

議題:

1. 新入会員・退会希望者の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より, 9名の新入会員と8名の退会希望者が報告され, 総会に諮ることを諒承。

2. 平成16年度第41回年次大会の運営

この件について氷鉤総務担当常任理事より報告と提案があり, これを諒承。

1) プログラムの変更

2) 総会式次第

3. 平成17・18年期理事候補者名簿

この件について氷鉤総務担当常任理事より投票結果が報告され, 上位30名を候補者とすることを諒承。

4. 年次大会次期開催地・開催校

この件について氷鉤総務担当常任理事より開催校を鳥取大学, 大会委員長を光多会員としたい旨の提案があり, これを諒承。

5. 年次大会次々期開催地・開催校

この件について氷鉤総務担当常任理事より開催校候補を東日本で検討中であることが報告され, 事

務局に一任することを諒承。

6. 『地域学研究(第35巻)』編集委員会の構成

この件について氷鉤総務担当常任理事より規程に基づく委員会構成が提示され, これを諒承。

7. 平成16年度会費未納者についての措置

この件について氷鉤総務担当常任理事より例年通り推薦者を通して督促したい旨提案があり, これを諒承。

8. 日本地域学会会費値上げの件

この件について氷鉤総務担当常任理事より, これまでの審議に基づき正会員1万円, 学生会員7千円とすることを総会に諮りたい旨提案があり, これを諒承。

9. 国際地域学会会員カテゴリー

10. その他

報告事項

1. 『地域学研究』第34巻 No.1 および No.3 の編集

2. *Studies in Regional Science*, Vol.33, No.2 および Vol.34, No.2 の編集

3. RSAI の動向

4. PRSCO の動向

5. その他

以上

日本地域学会 平成16年度 第4回理事会

日 時: 平成16年12月19日(日) 12:45-14:50

場 所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 酒井会長, 熊田, 信國, 青山の各副会長, 氷鉤総務担当常任理事, 加賀屋財務担当常任理事, 白井, 河村, 河野, 斉藤, 田中, 多和田, 原, 藤岡, 眞栄城, 三友, 宮城の各理事(浅見, 有吉, 河上, 鈴木, 高橋, 戸田, 矢田の各理事から委任状付託; 宮田監事; オブザーバとして伊東編集委員, 光多次期年次大会準備委員長; 小林, 櫻井, 渋澤, 水野谷, 森島の各幹事; 坂田事務局秘書)

議題:

1. 新入会員・退会希望者の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より, 10名の新入会員と11名および1団体の退会希望者が報告され, 総会に諮ることを諒承。

2. 第41回年次大会会計報告

この件について三友大会委員長および氷鉤総務担当常任理事より報告があり、これを諒承。

3. 第42回(2005年)年次大会準備委員会の構成

この件について、光多大会委員長と事務局に一任することを諒承。

4. 第42回(2005年)年次大会の並行セッションおよびシンポジウムの編成

この件について氷鉤総務担当常任理事より、並行セッションはニュースレター等で募集することおよびシンポジウムは光多大会委員長に一任することが提案され、これを諒承。

5. 名誉会員の推薦

熊田委員長より、木村吉男、鈴木多加史、眞榮城守定の3氏が名誉会員に推薦され、総会に諮ることを諒承。

6. 編集委員会の再構成および関連規程の改定

この件について氷鉤総務担当常任理事より関連規程の説明があり、審議の後諒承。

7. 『地域学研究』のセット販売の推進

この件について氷鉤総務担当常任理事より各大学の図書館等に推薦してもらいたい旨依頼があり、これを諒承。

8. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

9. その他

1) 地域学研究の増刷

この件について氷鉤総務担当常任理事より、在庫の残り少ない『地域学研究』Vol.32, No.2の増刷が提案され、これを諒承。

2) 日本学術会議

この件について熊田副会長より、日本学術会議関連の対応について執行部に一任してもらいたい旨提案があり、これを諒承。

報告事項

1. 『地域学研究』第35巻の編集

2. *Studies in Regional Science*, Vol.34, No.2の編集

3. RSAIの動向

4. PRSCOの動向

5. その他

日本地域学会 平成17・18年期 新理事会

日時: 平成16年12月19日(日)

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 青山, 白井, 加賀屋, 河村, 熊田, 河野, 斎藤, 酒井, 田中, 多和田, 信國, 原, 氷鉤, 藤岡, 光多, 三橋, 三友, 宮城, 宮田の各理事(浅見, 有吉, 高橋, 戸田, 福岡, 矢田の各理事より委任状付託); オブザーバとして小林, 櫻井, 渋澤, 水野谷, 森島の各幹事; 坂田事務局秘書

報告事項:

1. 平成17・18年期理事会の構成

氷鉤事務局長より理事の名簿が示され、就任承諾の回答などについての報告の後、自己紹介が行われた。

審議事項:

1. 平成17・18年期役員人事

慣例に従い酒井現会長より、次期会長候補として熊田禎宣理事が推薦され、出席者全員がこれを諒承。

休憩の後、熊田次期会長より役員人事が以下のように示され、これを諒承。

副会長: 信國 眞載, 青山 吉隆, 藤岡 明房

総務・庶務担当理事: 氷鉤 揚四郎

財務担当理事: 加賀屋 誠一

監事: 福井 秀夫, 萩原 清子

その他の役員人事については会長および事務局に一任することを諒承。

IV. 編集委員会報告

『地域学研究(第35巻)』第1回編集委員会

日時: 平成16年12月19日(日) 11:00-12:10

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 三友編集委員長, 眞榮城編集副委員長, 青山, 秋田, 伊東, 白井, 加賀屋, 鐘ヶ江, 熊田, 河野(博), 斉藤, 酒井, 渋澤, 關, 田中, 多和田, 中川, 中山, 信國, 原, 氷鉤, 樋口(洋), 福井, 藤岡, 松本, 光多, 宮城, 宮田, 森島, 山口の各委員(阿部, 有吉, 稲葉, 今泉, 河上, 河野(正), 衣笠, 高橋, 戸田, 萩原, 廣畑, 福岡, 松行, 宮下, 藪田の各委員から委任状付託; 小林, 櫻井, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書)

議題:

1. 『地域学研究』第35巻掲載候補論文の選考
年次大会の報告論文の中から座長評価に基づき、投稿を勧める論文を選考。
2. 同上機関誌印刷方針
この件について氷鉤総務担当常任理事より、印刷ページ数に基づき和文欧文の掲載論文数が提示され、これを諒承。
3. 同上機関誌書評欄応募図書取扱
この件について氷鉤総務担当常任理事より、引き続き充実させる方針であることが報告され、取り扱いについては編集委員長および事務局に一任することを確認。
4. *Studies in Regional Science*, Vol.34, No.2の編集
この件について多和田第2号編集委員長より、6篇で3月出版予定であることが報告され、これを諒承。
5. 平成17年度第14回学会賞の選考方針
6. その他

V. 役員人事等

平成17・18年期 日本地域学会事務局および各種委員会等の構成についてお知らせいたします。

1. 日本地域学会事務局

会長

熊田 禎宣 (千葉商科大学)

副会長

青山 吉隆 (京都大学)

信國 眞載 (名古屋市立大学)

藤岡 明房 (敬愛大学)

総務担当常任理事 (事務局長)

氷鉤 揚四郎 (筑波大学)

財務担当常任理事

加賀屋 誠一 (北海道大学)

庶務担当常任理事

氷鉤 揚四郎 (前出)

理事

浅見 泰司 (東京大学)

有吉 範敏 (長崎大学)

今泉 博国 (福岡大学)

臼井 功 (横浜国立大学)

河村 能夫 (龍谷大学)

河野 博忠 (常磐大学)

斎藤 参郎 (福岡大学)

酒井 泰弘 (滋賀大学)

高橋 秀悦 (東北学院大学)

田中 啓一 (日本大学)

多和田 眞 (名古屋大学)

戸田 常一 (広島大学)

富川 盛武 (沖縄国際大学)

原 勲 (北星学園大学)

福岡 克也 (東亜大学)

細江 守紀 (九州大学)

光多 長温 (鳥取大学)

三橋 博巳 (日本大学)

三友 仁志 (早稲田大学)

宮城 俊彦 (岐阜大学)

宮田 譲 (豊橋技術科学大学)

矢田 俊文 (九州大学)

山村 悦夫 (北海道大学)

監事

福井 秀夫 (政策研究大学院大学)

萩原 清子 (東京都立大学)

第42回年次大会準備委員会および実行委員会

委員長: 光多 長温 (前出)

学術委員会

委員長: 田中 啓一 (前出)

副委員長: 熊田 禎宣 (前出)

副委員長: 氷鉤 揚四郎 (前出)

広報委員会

委員長: 氷鉤 揚四郎 (前出)

副委員長: 太田 浩 (青山学院大学)

副委員長: 森島 隆晴 (敬愛大学)

名誉会員推薦委員会

委員長: 熊田 禎宣 (前出)

副委員長: 空席

機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞 (名古屋大学)

副委員長: 空席

Managing Editor:

氷鉤 揚四郎(前出)

学会賞選考委員会(第14回)

委員長: 眞榮城 守定(琉球大学)

副委員長: 原 勲(前出)

学会幹事(会則第18条第6項)

(1) 事務局幹事

総務・財務・庶務担当常任理事付

渋谷 博幸(豊橋技術科学大学)

水野谷 剛(茨城県科学技術振興財団)

小林 慎太郎(筑波大学)

(2) 委員会幹事

学術委員会

飯田 太郎(TALO 都市企画)

櫻井 一宏(SOF 海洋政策研究所)

田中 正秀(筑波大学)

名誉会員推薦委員会

田中 正秀(前出)

学会賞選考委員会

櫻井 一宏(前出)

事務局 事務秘書

坂田 道子(筑波大学 生命環境科学研究科 氷鉤研究室秘書)

事務局所在地

筑波大学 生命環境科学研究科 氷鉤研究室内

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

tel:+81-29-853-7221(fax)

sec@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

2. 第42回(2005年)年次大会 準備委員会および実行委員会

今年度の年次大会は、鳥取大学(〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学地域学部)で開催されます。主として、その開催準備の労をおとり頂く準備委員会委員の方々には以下のとおりです。

委員長(準備委員長): 光多 長温(前出)

委員:

会見 博範(鳥取市産官学連携室長)

岡本 康宏(鳥取県学術振興課長)

小野 達也(鳥取大学地域学部教授)

門田 眞知子(鳥取大学地域学部教授)

西尾 純(鳥取大学地域学部庶務係長)

山下 博樹(鳥取大学地域学部助教授)

吉村 伸夫(鳥取大学地域学部教授)

なお、この他に学会役員および幹事が準備委員の任に当たります。また、当日の実行委員会は上記準備委員会で構成します。

3. 学術委員会

委員長: 田中 啓一(前出)

副委員長: 熊田 禎宣(前出)

副委員長: 氷鉤 揚四郎(前出)

委員:

青山 吉隆(前出)

有吉 範敏(前出)

加賀 屋誠一(前出)

渋谷 博幸(前出)

多和田 眞(前出)

信國 眞載(前出)

福岡 克也(前出)

幹事:

飯田 太郎(前出)

田中 正秀(前出)

櫻井 一宏(前出)

4. 広報委員会

委員長: 氷鉤 揚四郎(前出)

副委員長: 太田 浩(前出)

副委員長: 森島 隆晴(前出)

委員:

有吉 範敏(前出)

加賀 屋誠一(前出)

戸田 常一(前出)(西部担当)

原 勲(前出)(東部担当)

松本 昭夫(前出)

三友 仁志(前出)

山崎 朗(九州大学)

幹事:

事務局幹事

5. 名誉会員推薦委員会

委員長: 熊田 禎宣 (前出)

副委員長: 空席

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

多和田 眞 (前出)

氷鉤 揚四郎 (前出)

幹事:

田中 正秀 (前出)

6. 機関誌編集委員会および第14回学会賞選考委員会

規程の改正により、機関誌『地域学研究』の編集体制が変わりました。その編集は、下記委員の方が担当します。

機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞 (前出)

副委員長: 空席

編集総務 (*Managing Editor*): 氷鉤 揚四郎 (前出)

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

木谷 忍 (東北大学)

木南 莉莉 (新潟大学)

高橋 秀悦 (前出)

中川 大 (京都大学)

信國 眞載 (前出)

藤岡 明房 (前出)

松本 昭夫 (中央大学)

三友 仁志 (早稲田大学)

顧問:

Peter Batey (University of Liverpool)

Kingsley Haynes (George Mason Univ.)

Geoffrey Hewings (Illinois Univ.)

Lars Lundqvist (Royal Inst. of Tech.)

Gordon Mulligan (University of Arizona)

Peter Nijkamp (Free Univ.)

David Plane (Arizona University)

Jacques Poot (University of Waikato)

John Quigley (Univ. of California, Berkeley)

Michael Sonis (Bar-Ilan University)

Roger Stough (George Mason University)

また、第14回学会賞選考委員会は、昨年度に早稲田大学で開催されました年次大会当日の座長を中心に構成され、以下のとおりです。

学会賞 (第14回) 選考委員会

委員長: 眞榮城 守定 (前出)

副委員長: 原 勲 (前出)

委員:

青山 吉隆 (前出)

秋田 隆裕 (国際大学)

阿部 宏史 (岡山大学)

有吉 範敏 (前出)

伊東 洋三 (専修大学)

稲葉 敏夫 (早稲田大学)

井原 健雄 (北九州市立大学)

今泉 博国 (前出)

臼井 功 (前出)

太田 浩 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

鐘ヶ江 秀彦 (立命館大学)

河上 省吾 (関西大学)

河野 正道 (関西学院大学)

衣笠 達夫 (流通科学大学)

木村 吉男 (前出)

熊田 禎宣 (前出)

河野 博忠 (前出)

齋藤 参郎 (前出)

酒井 泰弘 (前出)

渋谷 博幸 (前出)

關 哲雄 (立正大学)

高橋 秀悦 (前出)

田中 啓一 (前出)

多和田 眞 (前出)

戸田 常一 (前出)

中川 義英 (早稲田大学)

中山 恵子 (中京大学)

信國 眞載 (前出)

萩原 清子 (前出)

氷鉤 揚四郎 (前出)

樋口 清秀 (早稲田大学)
樋口 洋一郎 (東京工業大学)
廣島 康裕 (豊橋技術科学大学)
福井 秀夫 (前出)
福岡 克也 (前出)
福重 元嗣 (大阪大学)
藤岡 明房 (前出)
細江 守紀 (九州大学)
松岡 勝博 (那須大学)
松本 昭夫 (前出)
松行 康夫 (前出)
光多 長温 (前出)
三友 仁志 (前出)
宮城 俊彦 (前出)
宮下 國雄 (流通科学大学)
宮田 讓 (前出)
森島 隆晴 (前出)
藪田 雅弘 (中央大学)
山口 誠 (豊橋技術科学大学)
山村 悦夫 (前出)

幹 事:

櫻井 一宏 (前出)

7. Council of the RSAI and Council of the PRSCO of the RSAI

(国際地域学会および同環太平洋地域学会機構 理事会)

RSAI Council

Councillor:

氷鉤 揚四郎 (PRSCO 選出)(前出)

PRSCO Council

Councillor & Vice President

田中 啓一 (前出)

Councillor & Executive Secretary

氷鉤 揚四郎 (前出)

Councillor:

多和田 眞 (前出)

宮田 讓 (前出)

2005 年第 19 回環太平洋地域学会機構国際大会 (第 19 回 PRSCO 東京大会)

準備委員会委員長 田中 啓一 (前出)

同副委員長 氷鉤 揚四郎 (前出)

8. 第 19 期日本学術会議会員および研究連絡委員会委員等

会 員

酒井 泰弘 (前出) (日本地域学会 推薦)

熊田 禎宣 (前出) (日本不動産学会 推薦)

廣松 毅 (東京大学) (日本計画行政学会 推薦)

伊藤 達雄 (名古屋産業大学) (日本環境共生学会 推薦)

宮下 國雄 (前出) (日本交通学会 推薦)

経済政策研究連絡委員会 委員長

熊田 禎宣 (前出)

9. 日本経済学会連合

評議員 (日本地域学会選出)

鐘ヶ江 秀彦 (前出)

渋谷 博幸 (前出)

「日本経済学会連合 英文年報」への日本地域学会分の担当係

編集委員: 細江 守紀 (前出)

執筆担当: 渋谷 博幸 (前出)

10. 地理関連学会連合

担 当:

伊藤 達雄 (名古屋産業大学)

田中 正秀 (前出)

11. IRSR(*International Regional Science Review*) の Editorial Board Member (日本地域学会推薦)

高橋 秀悦 (前出)

信國 眞載 (前出)

VI. 平成 17 年度 日本地域学会 会費納入のお願い

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会
会長 熊田 禎宣

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、早速ですが、同封致しました請求書のとおり、日本地域学会平成 17 年度会費をご請求申し上げますので、

納入期限 平成 17 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけます様お願い申し上げます。

なお、預金口座引落しの手続きを平成 17 年 3 月 20 日までに完了された方には、平成 17 年 6 月 27 日に請求内容にしたがって引落しを行いますのでお早め手続きをおとり下さる様お奨め致します。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが、事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減、さらに予想されます円安傾向の為替リスク回避のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう、かさねてお願い申し上げます。

敬具

1. 平成 17 年度 日本地域学会 会費等 (適用期間限定)

(1) 平成 17 年度 (平成 17 年 4 月 1 日 - 平成 18 年 3 月 31 日)

一般会員年会費 10,000 円

学生会員年会費 7,000 円

(2) *Papers in Regional Science* を印刷された形での購読希望の方の追加料金

一般会員 6,500 円

学生会員 2,800 円

(3) *International Regional Science Review* 誌 (割引) 購読料

一般会員 2,500 円 (US\$20.00)

学生会員 2,000 円 (US\$15.00)

但し、これらの会費、購読料が適用されるのは、

(a) 納入期限: 平成 17 年 3 月末日までに上記会費を納入された日本地域学会 会員の方、または、

(b) 平成 17 年 3 月 20 日までに預金口座引落しの手続きを完了された日本地域学会 会員の方に限ります。

2. 国際会費の期限内納入の特典

外国為替市場の成り行きが不透明な事もあって、上記の金額で期限を遅れて RSAI 会費をご納入いただいても、著しく為替差損を生じ、これを日本地域学会の一般会計が負担しなければならない危険がかなり高いものと見込まれます。

日本地域学会 理事会では、このような事を考慮して、上記納入期限に遅れた場合には、

(1) 一般会員年会費として 11,000 円を請求する。

(2) 学生会員年会費として 8,000 円を請求する。

(3) *Papers in Regional Science* 印刷物として購読希望の方の追加料金一般会員 7,500 円

(4) 上記 学生会員 3,800 円を請求する。

(5) IRSR 誌 (割引) 購読料として一般会員は 3,500 円を請求する。

(6) 上記 学生会員は 3,000 円を請求する。

という事を理事会で決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

VII. 第 42 回日本地域学会年次大会

(平成 17 年 10 月 8(土)-10 日(月))

論文報告の募集

平成 17 年度 (2005 年) 日本地域学会第 42 回年次大会は、鳥取大学において下記の通り開催されます。

会員諸賢におかれましては論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

記

開催日時: 平成 17 年 10 月 8 日 (土)-10 日 (月)

開催校: 鳥取大学

開催地: 〒 680-8551 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大

学地域学部 TEL: 0857-31-5498, FAX: 0857-

31-5076

大会準備委員会 委員長: 光多 長温 (鳥取大学地域学
部教授, 日本地域学会理事)

共通論題:

- (a) 地域および地球環境
- (b) 持続可能都市・地域システム
- (c) 産業集積と情報
- (d) 地方分権と地方財政
- (e) 地域情報化
- (f) 情報通信技術と空間経済
- (g) 情報経済理論
- (h) 情報化と国際競争・協調
- (i) 道路交通とネットワーク
- (j) テーマパークと地域発展
- (k) 大都市問題
- (l) 情報通信と都市
- (m) 中心市街地活性化
- (n) 多地域経済成長モデル

一般論題: 立地, 人口移動, 地域経済等の地域学一般
の課題すべて

総会日時: 平成 17 年 10 月 8 日 (土)
13:20- (予定)

(公開) シンポジウム日時:
平成 17 年 10 月 8 日 (土) 14:20- (予定)

シンポジウム・テーマ: 地域経済の新たな息吹き -
産官学の連携による地域振興 - (仮題)

以上

[論文報告] を希望される方は,

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には, 同英文訳
3. 著者名, 所属 (複数の場合には, 発表者を明記)
4. 同上英文表記
5. Abstract: 和文 (700 字以内) および
英文 (200 words 以内) の双方を提出
6. 対応責任者氏名, 連絡先住所, tel, fax,
e-mail アドレス等
7. 希望討論者 2 名 (会員に限る; 場合によっては,
希望通りとならないことをあらかじめご承知
おき下さい)

を明記して, また,

[特別セッション編成] を希望される方は,

- (i) セッションタイトルおよびセッションの意図,
内容等の概要 (和文 300 字以内, 英文 100 words
以内)
- (ii) 座長 (1-2 名の会員) 氏名, 所属, 同英文表記

(iii) 1 セッション当たり 3-4 編の報告を目途に, 各
論文についての上記論文報告希望に準ずるデー
タ。但し, 討論者は各々の論文について 1 名で
も可。

を明記して, e-mail, fax または封書等で奮ってご応
募下さい (応募締切: 平成 17 年 5 月 31 日)。

問合せおよび論文報告等の応募は以下へお願いしま
す。

水鉤揚四郎 (ひがの ようしろう)

日本地域学会

事務局長 (総務担当常任理事)

筑波大学 生命環境科学研究科 教授

〒 305-8572 つくば市天王台 1-1-1

tel, fax: +81-29-853-7221

E-mail: higano@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

VIII. PRSCO 大会

第 19 回 PRSCO 東京大会 (日本大学)
(平成 17 年 7 月 25(月)-28 日 (木))

論文報告の募集

第 19 回 PRSCO 大会が, 日本大学において下記
のとおり開催されます。PRSCO は, 日本地域学会
がメインとする国際会議であります。今回は東京で
開催されることもあり, 最先端・最新の研究成果を
発表する場として, また, 若手研究者の研究報告や広
く海外研究者との交流の場として有効活用してい
ただけます。

会員諸賢におかれましては, 論文報告, 特別セッ
ションの編成等, 奮ってご参加ください。

記

開催日時: 平成 17 年 7 月 25 日 (月)-28 日 (木)

開催校: 日本大学経済学部

開催地: 〒 101-8360 東京都千代田区三崎町 1-3-2 TEL:

03-0000-0000, FAX: 03-0000-0000

メインテーマ: Synthesis of Disciplines for Sus-
tainable Regional Development

大会委員長: 田中 啓一 (日本大学経済学部教授, 日本地域学会理事)

応募締切: 平成 17 年 3 月 31 日

以上

[論文報告] と [特別セッション編成] を希望される方は以下の情報を明記して, e-mail, fax または封書等でご応募下さい。

[論文報告]

1. 論文タイトル (英文)
2. 著者名, 所属 (複数の場合には, 発表者を明記) (英文)
3. Abstract: A4 用紙 1 ページ (英文)
4. 対応責任者氏名, 連絡先住所, tel, fax, e-mail アドレス等 (和文と英文)

[特別セッション編成]

- (i) セッションタイトルおよびセッションの意図, 内容等の概要 (A4 用紙 1 ページ, 英文)
- (ii) 座長 (1-2 名) 氏名, 所属 (英文)
- (iii) 1 セッションあたり 3-4 編の報告を目途に, 各論文についての上記論文報告に準ずる情報

問合せ先:

氷鉋揚四郎 (ひがの ようしろう)

日本地域学会

事務局長 (総務担当常任理事)

筑波大学 生命環境科学研究科 教授

〒 305-8572 つくば市天王台 1-1-1

tel, fax: +81-29-853-7221

E-mail: higano@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

IX. 学会賞 授賞者選考候補者推薦の募集

日本地域学会では, 地域学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為, 日本地域学会学会賞を毎年授与しています。

今年度も第 14 回日本地域学会 学会賞授賞者選考候補者の推薦の募集を行いますので, どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。功績賞: 地域学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: すぐれた研究論文によって地域学の発展に著しく寄与し, 研究業績の意義や貢献が多である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

受賞者には, 賞状と純銀製メダルが授与されます。(http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/Award/appl_jap.html を参照)

第 14 回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦 応募要領

◇応募期限: 平成 17 年 4 月 8 日 (金) (事務局必着)

◇応募方法: 功績賞への応募は他薦のみですが, 論文賞と奨励賞への応募は自薦, 他薦の別を問いません。

◇推薦資格: 推薦者は, 日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等:

(1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は, 過去 2 年間 (暦年) に発表したもので, その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (*Studies in Regional Science*)』および *Papers in Regional Science of the RSAI* に掲載されている論文であることが条件です。

(2) 奨励賞の応募については, 年令がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時 35 才未満であった事が必要です。

◇選考方法: 「日本地域学会 学会賞 (奨励賞・論文賞・功績賞) に関する規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第, 受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第 42 回年次大会における総会 (平成 17 年 10 月 8 日 (土) 鳥取大学) にてとりおこないます。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。

X. 会員通信

北海道大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 交通システム計画学分野の紹介

北海道大学は, 札幌の中心部に位置しています。こうした立地条件に関わらず, 日本一の広さを誇るキャンパス内には, 未だ多くの自然が残されており, それに惹きつけられ毎年多くの観光客が訪れています。中でもポプラ並木は北大の代名詞となるくらいに有名であり, 北海道を代表する歴史的遺産で

す。北海道においても猛威を振るった2004年の台風18号により、その多くが倒れてしまいましたが、北大関係者のみならず多くの方々の温かい支援によって、現在その再生事業が進められています。

交通システム計画学分野は、大学院重点化構想によって1997年に設置された大講座「交通システム工学講座」の一分野であり、その前身は土木工学科交通計画学研究室です。現在、博士後期課程7名、博士前期課程8名、学部6名の計21名の学生が在籍しており、そのうち6名が海外からの留学生です。国籍はさまざまですが、中国やタイのアジア圏はもとより、ブラジル、エチオピアからの留学生もおります。このような国際性豊かな環境から、論文ゼミにおいては英語と日本が入り乱れ、時には日本人が英語、留学生が日本語で議論し、互いにその状況に気づいていないおもしろい風景も観察されます。研究分野も多岐にわたります。たとえば、住民参加をベースとした河川治水計画案の策定に関する研究、道路施設(舗装)のライフサイクルコスト評価、地域振興から見た道の駅に関する評価などが挙げられ、交通計画はいうまでもなく、都市・地域・自然環境に関わる計画全般が研究対象です。

毎年夏になると、「夏ゼミ」と称される研究合宿が行われます。夏ゼミでは、新しく分野に配属された4年生が中心となり、北海道内のまちを対象にそのまちづくり案をまとめます。具体的には、いくつかのグループに分かれ、ワークショップ形式の議論を行い、その進行とそれを補助するファシリテータを4年生が務めます。ここで4年生はまちづくりの難しさだけでなく、ひとの意見をまとめることはもちろんのこと、議論が発散しないように人(先生かも?)に話をやめさせる最大の難題にも直面します。夏ゼミに先立って4年生は、対象とするまちについて、1~2ヶ月かけて詳細な調査を行います。それをまとめた資料を当日配り、それに基づいて議論が行われます。この資料作りのため、ときには徹夜することもあるようです。当分野に配属された当時では、心細そうに見えた4年生は夏ゼミ当日には自信にあふれた表情に変わり、その成長の早さに毎年驚かされます。この経験がその後行われる卒業論文に活かされることは言うまでもありません。ちなみに昨年は、

帯広市を対象とした議論を行ってきました。

一方、北大では来年度からは公共政策大学院が設置されることになっており、当分野の加賀屋誠一教授はその仕掛け人の一人です。公共政策大学院は、法学、工学、経済学の三研究科が中心となり、横断的に連携し、官・民・理系・文系を問わず必要となる公共政策の基礎的理論、知識・素養の習得を目的に設置されます。「文理融合」、「パートナーシップ時代の政策学」、「構想力と実現力」を3つの主要コンセプトとし、これまで経験しなかった新しい政策課題に取り組むことができる人材の育成を行います。今までにないタイプの大学院であり、これからの進展が期待されています。学部については、コース制がとられることになり、旧土木工学科は、本分野が所属することになる国土政策コースとシビルエンジニアリングコースに分かれることとなります。シビルエンジニアリングコースは、基本的に従来の土木工学の考えを踏襲しますが、国土政策コースでは、政策の立案、評価、執行するための基礎となる専門的な学問に重点をおいた教育が行われることとなります。さまざまな時代の要請に対応し、目まぐるしく改組が進む状況の中、当分野が担う役割は大きいと考えられます。組織や名前だけでなく中身の変化も伴った、実りある改組となるよう心がけている次第であります。

これから卒業論文・修士論文のラストスパートの時期が始まりますが(原稿執筆時期は12月末です)、学生たちは自分の研究に奮闘中です。今年度も社会に役に立つような論文が生まれるような予感がしております。今後、地域学会において学生達に発表の機会を与え、少しでも学会に寄与できるような活動を進めていければ幸いと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

(文責: 内田賢悦)

XI. 会員の移動

新入会員

正会員

奥山 恭英 (Research Associate, Regional Research Institute, West Virginia University)

酒井 彰 (流通科学大学サービス産業学部教授)
佐藤 秀樹 (東京都水道局浄水部管理課主事)
下田 真也 (九州大学大学院経済学府大学院生)
杉野 学 (名古屋市上下水道局技術本部管路部配水課技師)
中嶋 大輔 (筑波大学環境科学研究科修士課程)
原田 葉子 ((株) ビデオリサーチメディアリサーチ事務局)
廣田 恵子 (日本自動車研究所総合研究部研究員)
福島 陽介 (京都大学大学院工学研究科学生)
川崎 晃央 (九州大学大学院経済学府博士後期課程)
後藤 大策 (九州大学大学院経済学府博士後期課程)
後藤 大太郎 (長崎大学大学院生産科学研究科環境科学専攻大学院生)
小西 友子 (長崎大学大学院生産科学研究科環境科学専攻大学院生)
大門 創 (早稲田大学大学院理工学研究科)
矢島 邦昭 (長崎大学経済学部教授)
山口 龍虎 (長崎大学大学院環境科学研究科環境政策専攻大学院生)
山田 康治 ((株) ウエスコ PFI 推進室室長)
渡部 晃司 (十八キャピタル (株) 営業部営業部長)
徐 峰 (筑波大学環境科学研究科学生)

藤井 弥太郎
福永 敬大
法人会員
財団法人 日本不動産研究所

退会会員

正会員

Kongruang, Chuleerat

赤谷 隆一

安藤 昭

石川 祐三

稲生 信男

大村 道明

衣本 篁彦

近藤 輝男

佐藤 恵介

島本 美保子

曹 喜亮

武田 洋紀

中村 正治

蜂谷 博

林山 泰久